

農村・農業DX/SFC共創に向けた JICA北海道（帯広）の取り組み事例紹介

2020年8月18日
JICA北海道（帯広）



発表内容

1. 帯広研修概要
2. ブラジル調査
3. 研修リソース
4. 共創
5. まとめ



1.研修概要

- タイトル：農業・農村DX／スマートフードチェーン共創に向けた産官学人材育成
- 目標：各国で産官学連携による農業・農村DX/スマートフードチェーンの構築を実現するために必要な知識を習得する。
- 成果：
 - 1．自国の農業政策における農業・農村DX/SFCの現状や位置づけ、促進の課題を理解する。
 - 2．日本におけるDX関連政策、開発技術、および促進における産官学それぞれの役割を理解する。
 - 3．SFC共創に向けたアクションプラン/ビジネスプランを作成する。

1.研修概要

- 期間：4週間程度
 - ※2021年～2023年、毎年1回
 - ※冒頭1週間は関東（東京、茨城など）
- 対象国と言語：中南米地域、スペイン語
- 対象者：開発途上国における農業・食品分野ならびに情報通信分野に携わる行政官、研究者、民間セクター関係者。
- 人数：15名程度/回
- 内容：日本の政策全般(Society 5.0 and Smart Food Chain)
 - 日本の産官学におけるSFC技術開発の取り組み
 - 日本の民間企業との交流
 - 日本の産官学関係者と共同でアクションプランを作成
- キーワード：共創

2. ブラジル調査

- 技術レベル、産官学連携レベル高い
IoT農機・AI活用への要望



ナノテクノロジーを活用した農産物の鮮度
保持のための天然素材ワックス



センサーによる高速局所除草・防除機や顕微
鏡レベルで病原を検知・可視化するスコープ
などを開発・販売するスタートアップ企業



MR I を活用した農産物・食品の
品質管理機器

- 共創に向け学びあえるレベル、むしろ進んでいる

2. ブラジル調査

- 高度な先端技術（IoT農機・AI活用など）は日本も道半ば。それら技術の活用は外部支援を必要としない農家・企業が独自で取り組めるという一面もあり。



中規模農家 総面積2,100haを経営する日系農場 トウモロコシ450ha、大豆1,400ha、小麦400ha、果物

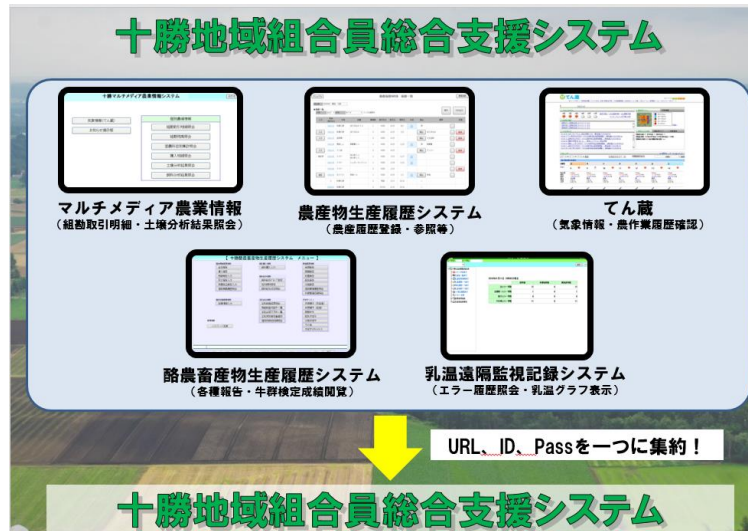


200馬力級トラクター2台（GPS、エアコン付き）+4台、大型コンバイン2台、従業員16名、売上約3億1千万円、所得約1億円

- もう少しベーシックな部分での、畑作畜産主体の小中規模農家のレベルアップに役立つ技術・知見・経験の共有も。
- コミュニティーでの取り組み。農機メーカーの意識向上。

3.研修リソース

- ・十勝農業試験場：北海道のSFC研究の事例紹介
- ・十勝農協連：農業支援システムの紹介、土壌分析センター
- ・ヤンマー：スマートアシストとWAGRIの連携について
- ・道下農場：農業の6次化と農家レベルのSFCの紹介
- ・鹿追農協：コントラクタによる高能率農作業の紹介



4.共創

- SFC共創に向けたアクションプラン/ビジネスプランの作成

- ポイント

- ・研修員と受入側（民間企業、研究機関、政府機関）の関係構築

- ※仲良くなることの重要性

- ① 参加者の事前情報収集と共有、来日時のお見合いセッション

- ② 更別村でのフィールドトリップ合宿（1泊2日）

- ③ ハッカソンイベント

- ④ 帰国後もコミュニケーションを続けられる関係性の構築



5.まとめ

- 双方向のシナジーに重点を置くチャレンジングな研修
- アクションプラン、ビジネスプランレベルでWin-W i n の関係を築ける民間企業、研究機関等の参加が鍵

ご清聴ありがとうございました。

近藤 直 KONDO Tadasu (Mr.)
JICA北海道（帯広）道東業務課
TEL : 0155-35-1210
Mail : Kondo.Tadasu@jica.go.jp